

図 9・3(C) 嚙下：年齢（歳）

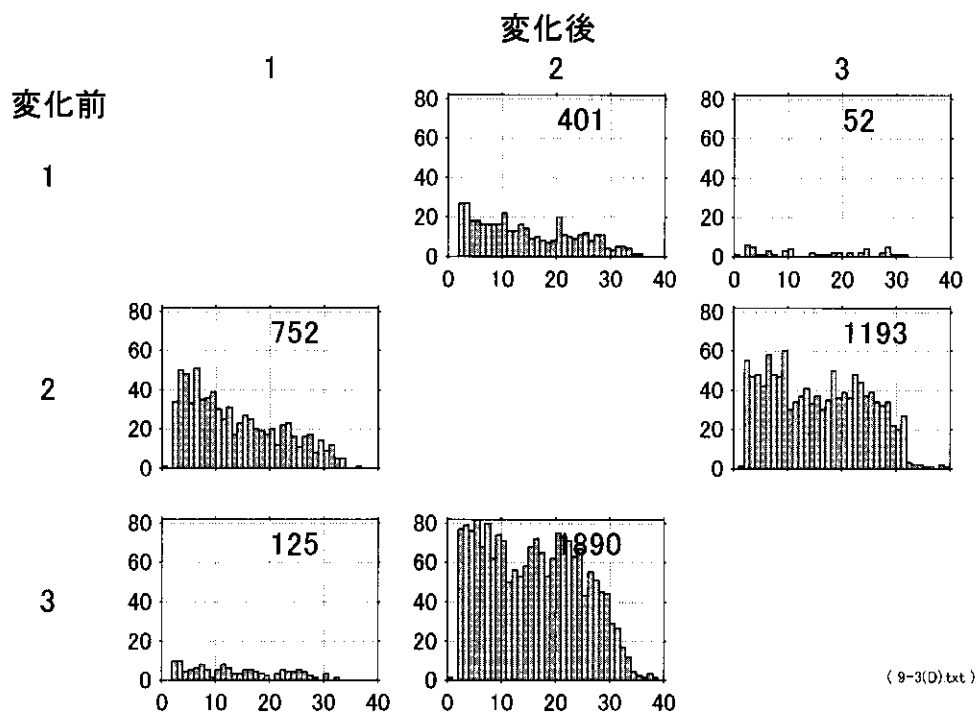


図 9・3(D) 嚙下：変化発生までの入所期間（年）

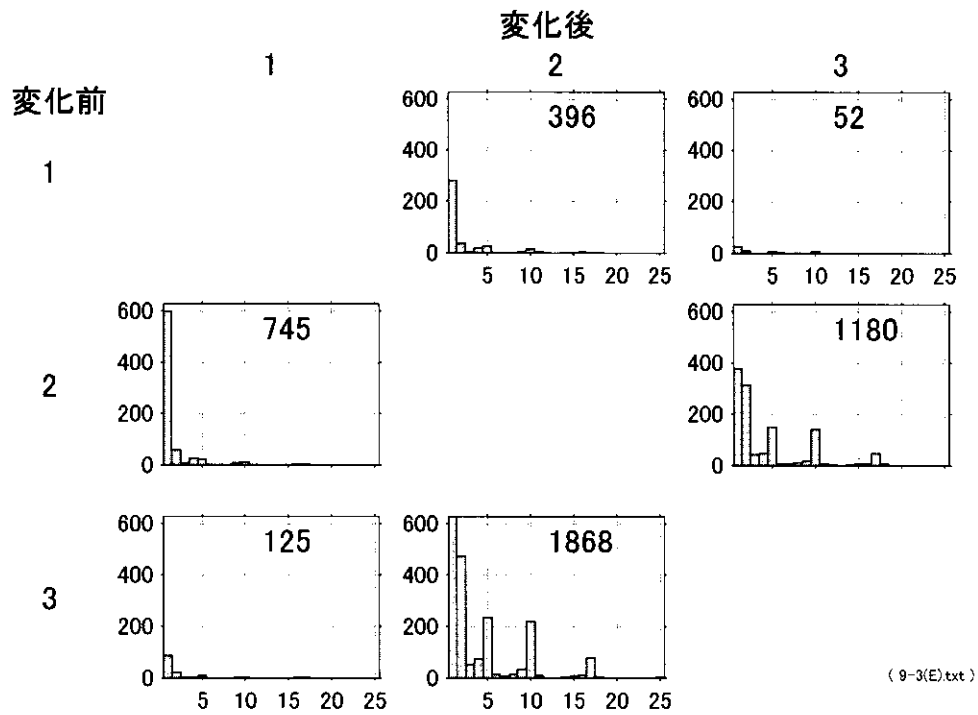


図9-3(E) 嚙下：大島の分類

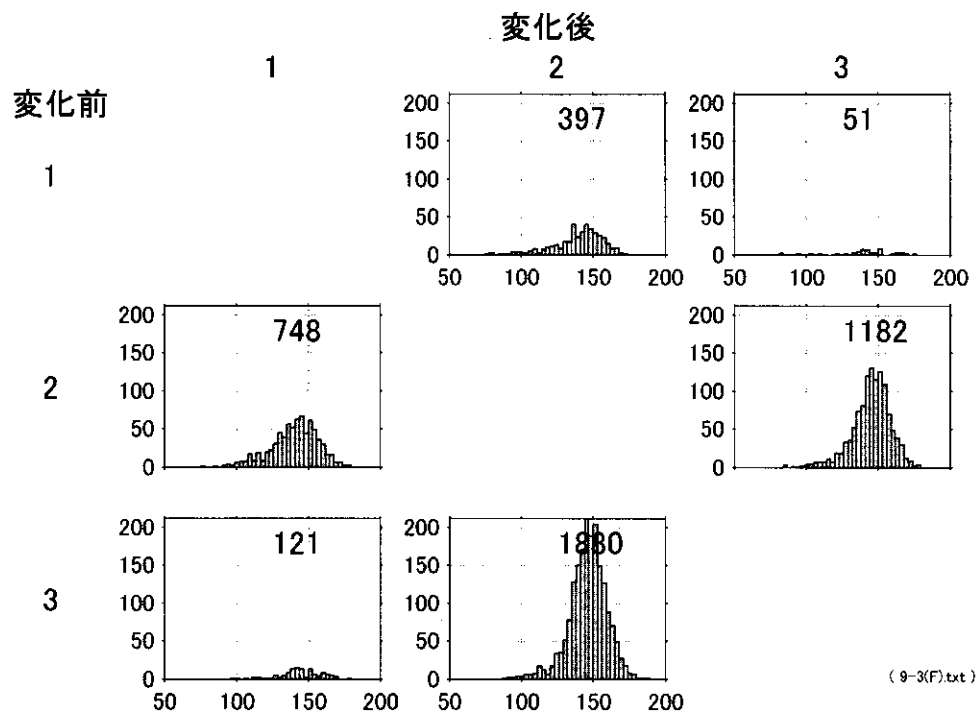
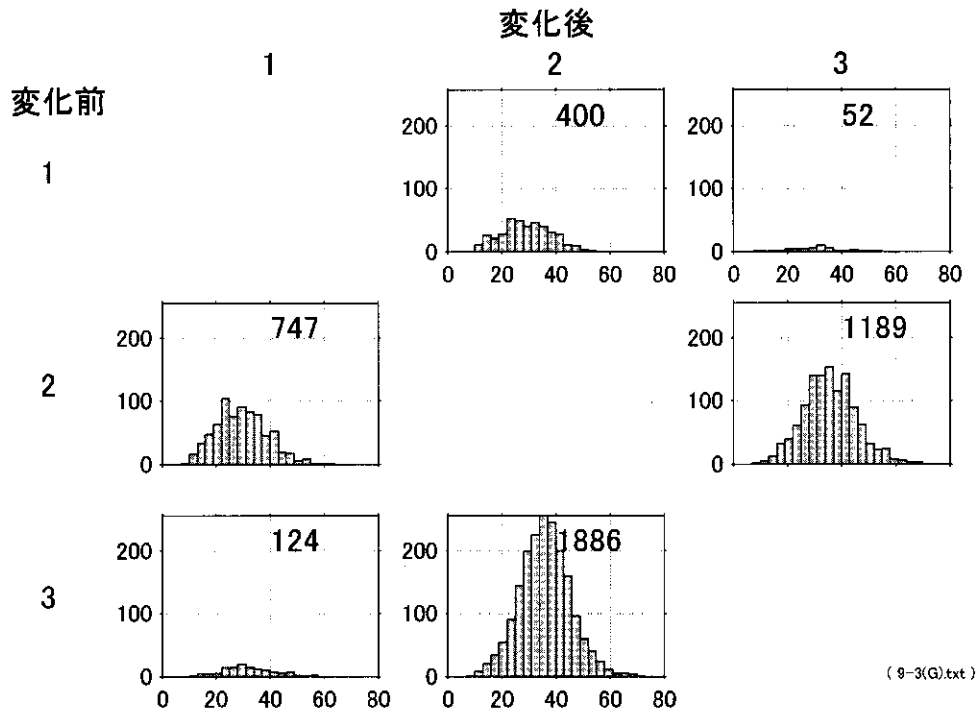
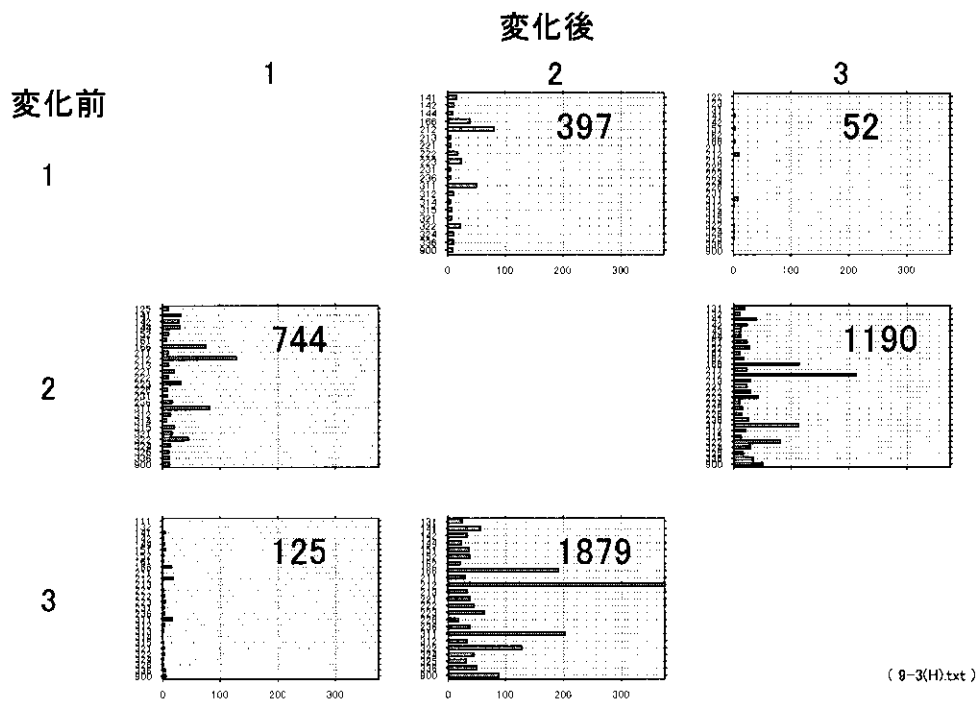


図9-3(F) 嚙下：身長 (cm)



(9-3(G).txt)

図 9 - 3(G) 嚙下：体重 (kg)



(9-3(H).txt)

図 9 - 3(H) 嚙下：主要病因

## 9.4. 摂食方法

### ■改訂版■

1	なし
2	手づかみで食べる
3	スプーンでなんとか食べる
4	スプーンで上手に食べる
5	箸を使って食べる

<図 9-4 (A)～(H)>

全体：対象症例数 8358 名の中で不変群 6012 名を除いた、2346 名 (28.1%) に変化がみられた。改善は 1486 回、退行は 1842 回発生し、改善は退行に比べて少なかった (改善/退行：-19.3%)。また、改善と退行の和 (3328 回) を変化を起こした症例数で除すると、変化が平均で 1.42 回発生したということになる。改善が多くみられた水準は、1 群→3 群 (261 回、改善回数の 17.6%)、3 群→4 群 (661 回、44.5%) であった。一方、退行に関しては、3 群→1 群 (412 回、退行回数の 22.4%)、4 群→3 群 (715 回、38.8%) の変化が多くみられた。スプーンを使えたり使えなくなったりの変化が中心であった。

年齢：改善 3 群→4 群、1 群→3 群ともにピークは 33～35 歳であった。退行では、4 群→3 群、3 群→1 群ともにピークは 33～35 歳であった。改善と退行の年齢ピークは一致した。

体重：改善 3 群→4 群は 37～39 kg、1 群→3 群は 31～33 kg にピークがあった。退行では、4 群→3 群は 40～42 kg、3 群→1 群は 37～39 kg にピークがあった。年齢のピークは同じ 33～35 歳であるにもかかわらず、改善群と退行群ともに機能の高いグループの体重が重い傾向にあった。これは、摂食行動の容易さと関係すると思われた。

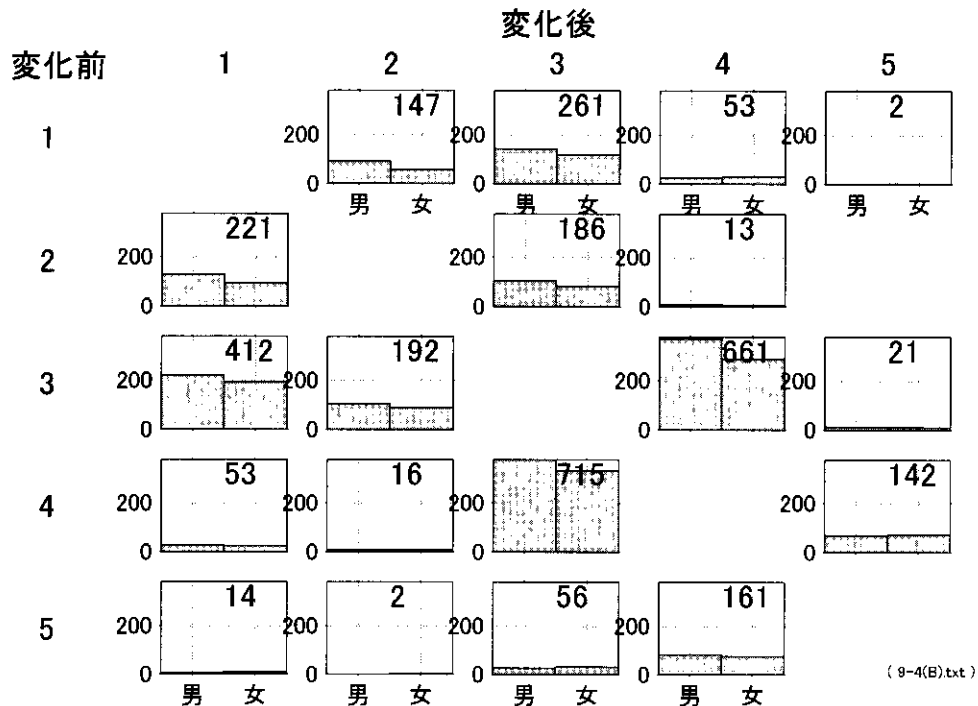
	変化後 1	2	3	4	5
変化前 1	3787 名	147 回	261 回	53 回	2 回
2	221 回	135 名	186 回	13 回	0 回
3	412 回	192 回	1103 名	661 回	21 回
4	53 回	16 回	715 回	668 名	142 回
5	14 回	2 回	56 回	161 回	319 名

対象症例数 = 8358 名  
 不変症例数 = 6012 名  
 変化症例数 = 2346 名

改善変化回数 = 1486 回  
 退行変化回数 = 1842 回

(9-4(A).txt)

図 9-4(A) 摂食方法：全体



(9-4(B).txt)

図 9-4(B) 摂食方法：性別

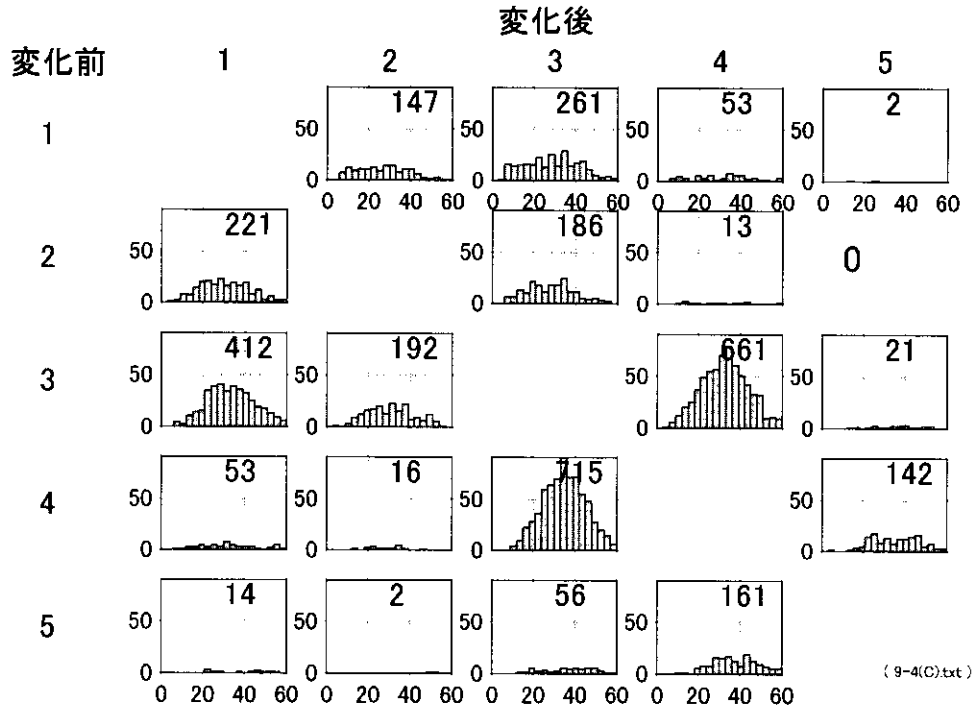


図 9-4(C) 摂食方法：年齢（歳）

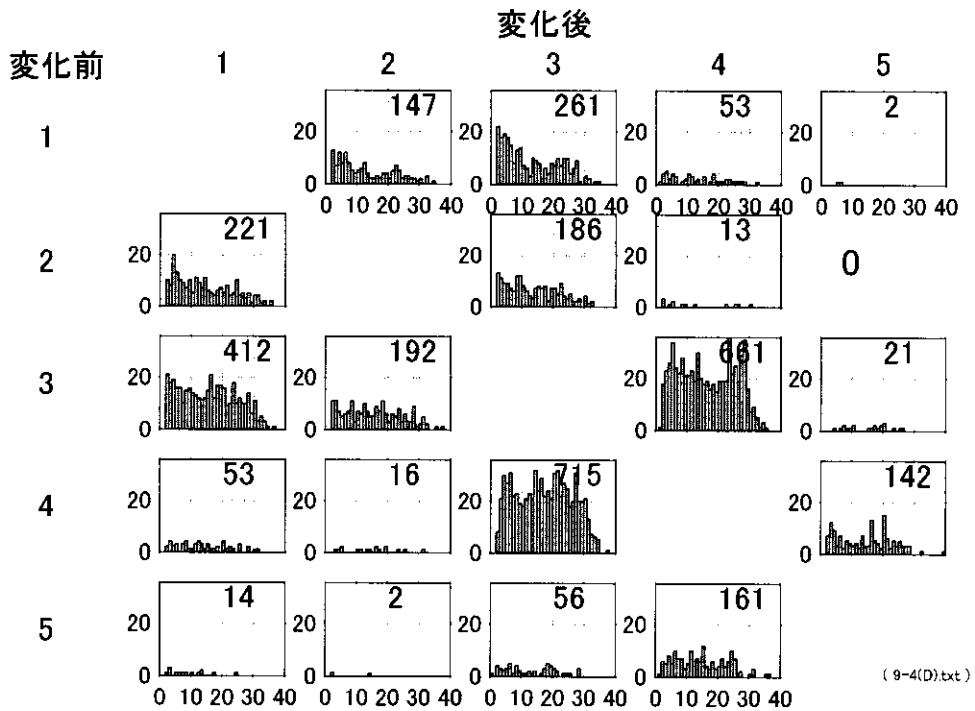


図 9-4(D) 摂食方法：変化発生までの入所期間（年）

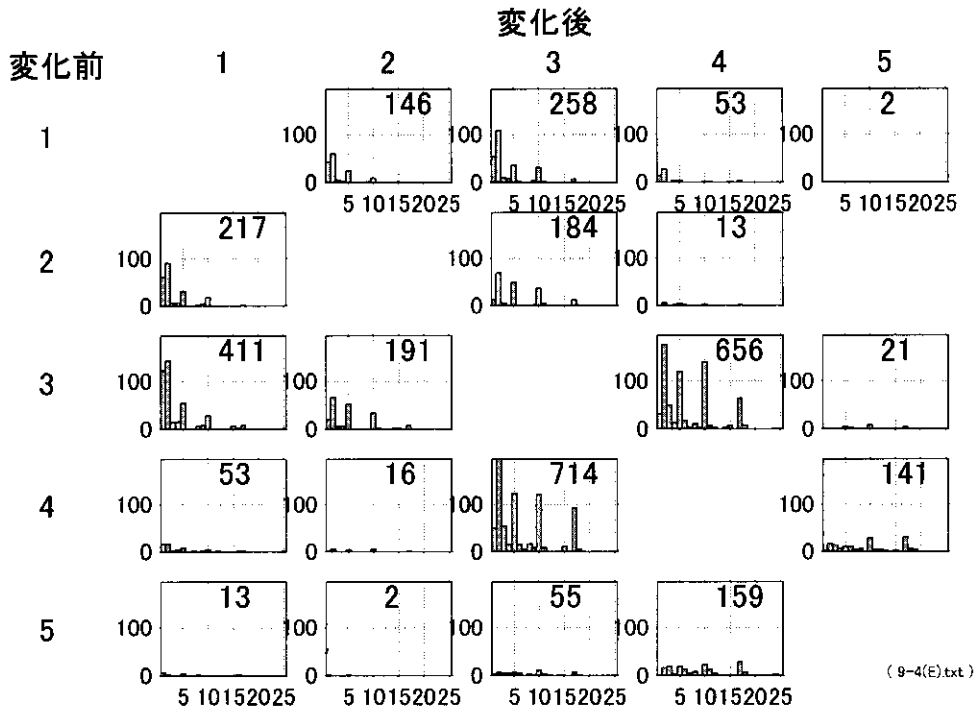


図9-4(E) 摂食方法：大島の分類

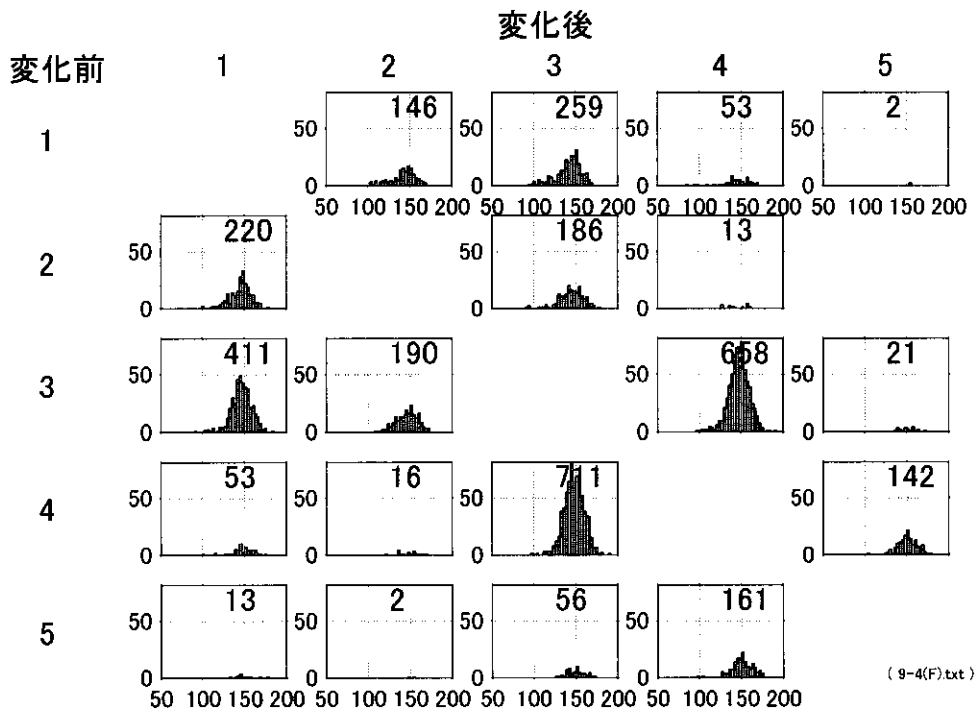


図9-4(F) 摂食方法：身長 (cm)

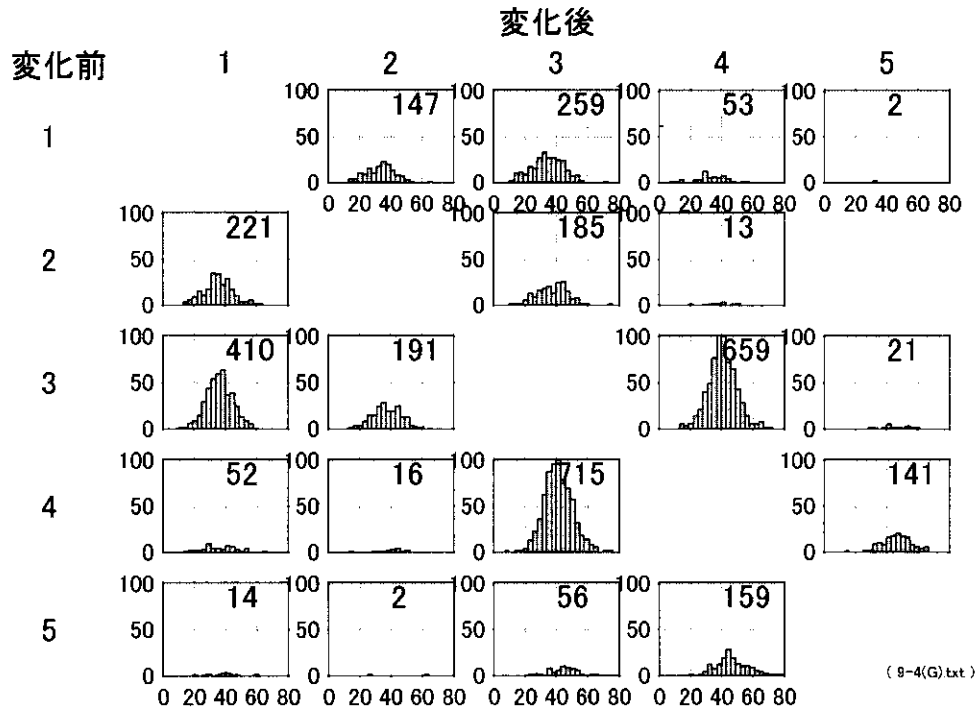


図 9-4(G) 摂食方法：体重 (kg)

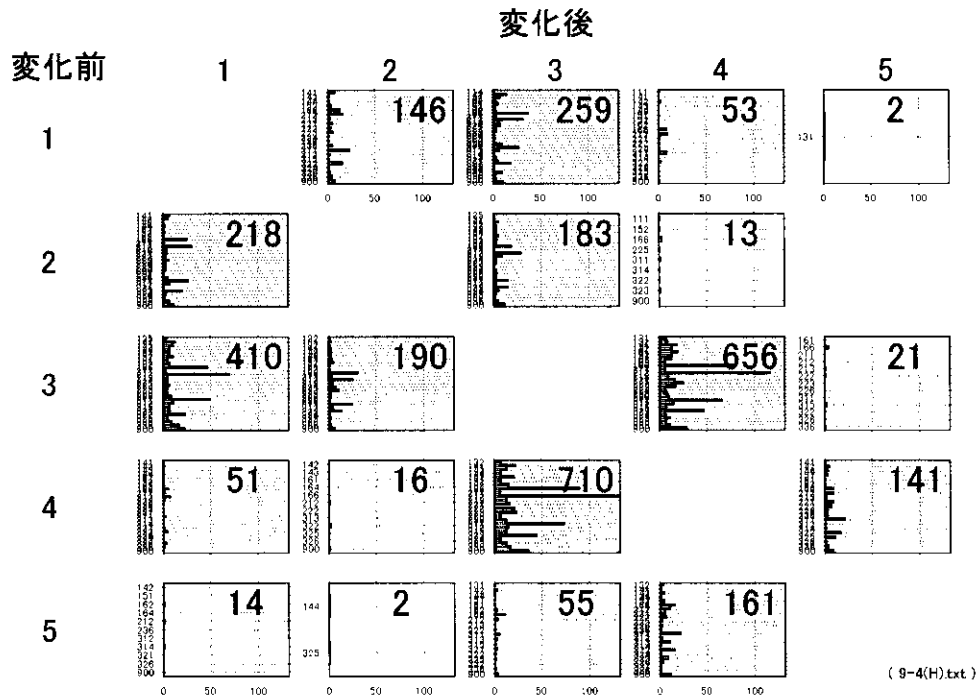


図 9-4(H) 摂食方法：主要病因



## 9.5. 食事の介助

### ■改訂版■

1	全介助（経管栄養など）
2	全介助（経口）
3	かなり介助が必要
4	必要に応じて介助
5	介助不要

<図 9-5 (A)～(H)>

全体：対象症例数 8573 名の中で不変群 5321 名を除いた、3252 名（37.9%）に変化がみられた。改善は 1801 回，退行は 2854 回発生し，改善は退行に比べて少なかった（改善/退行：-36.9%）。また，改善と退行の和（4655 回）を変化を起こした症例数で除すると，変化が平均で 1.43 回発生したということになる。改善が多くみられた水準は，2 群→3 群（360 回，改善回数の 20.0%），3 群→4 群（619 回，同 34.4%），4 群→5 群（500 回，27.8%）であった。一方，退行に関しては，2 群→1 群（657 回，退行回数の 23.0%），3 群→2 群（507 回，17.8%），4 群→3 群（714 回，25.2%），5 群→4 群（663 回，23.2%）の変化が多くみられた。

性別：改善件数に対する退行件数の比は男性 1.45 倍に対して女性 1.76 で女子の方が大きい傾向があった。

年齢：改善群で，3 群→4 群は 30～32 歳，4 群→5 群は 36～38 歳，2 群→3 群は 33～35 歳にピークがあり，30 代での改善のピークが認められた。一方，退行群では，4 群→3 群は 33～35 歳，5 群→4 群は 36～38 歳，2 群→1 群は 18～20 歳であり，介護度の高いものは，より高齢で退行を迎える傾向があった。

体重：改善群の 3 群→4 群は 40～42 kg，4 群→5 群は 43～45 kg，2 群→3 群は 31～33 kg にピークがあり，退行群では，4 群→3 群は 37～39 kg，5 群→4 群は 43～45 kg，2 群→1 群は 25～27 kg であった。年齢の要素に加えて介護度の低いものは，体重が重たい傾向にあり，また退行する群は改善する群に対して同世代でも体重が軽い傾向が示された。食事介助と摂食機能の相関によるものと解釈された。

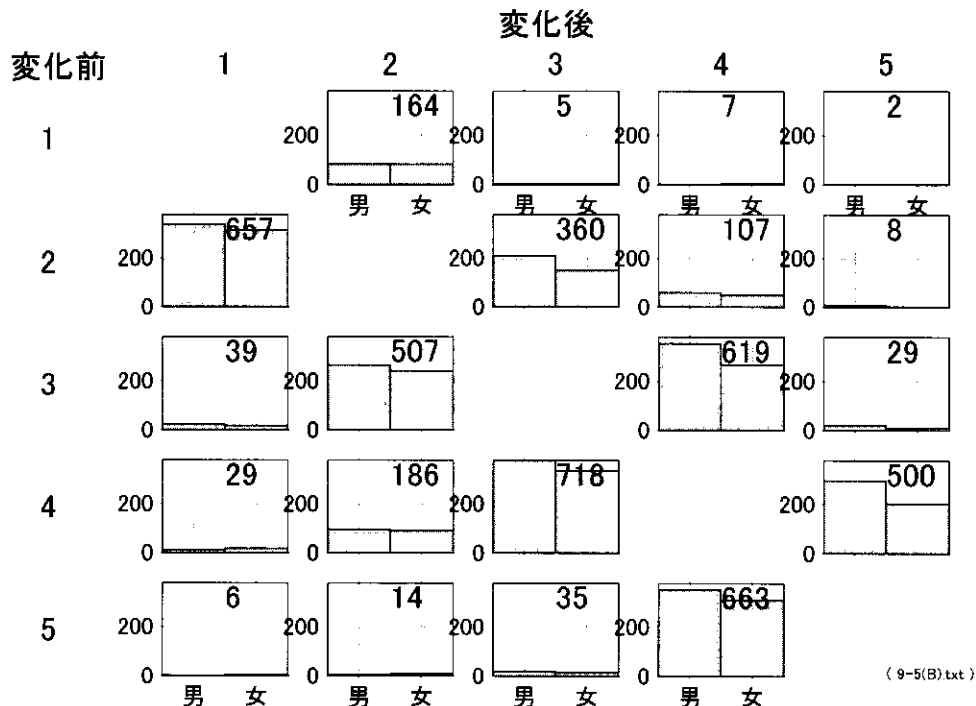
	変化後 1	2	3	4	5
変化前 1	598 名	164 回	5 回	7 回	2 回
2	657 回	2865 名	360 回	107 回	8 回
3	39 回	507 回	326 名	619 回	29 回
4	29 回	186 回	718 回	990 名	500 回
5	6 回	14 回	35 回	663 回	542 名

対象症例数 = 8573 名  
 不変症例数 = 5321 名  
 変化症例数 = 3252 名

改善変化回数 = 1801 回  
 退行変化回数 = 2854 回

(9-5(A).txt)

図 9-5(A) 食事の介助：全体



(9-5(B).txt)

図 9-5(B) 食事の介助：性別

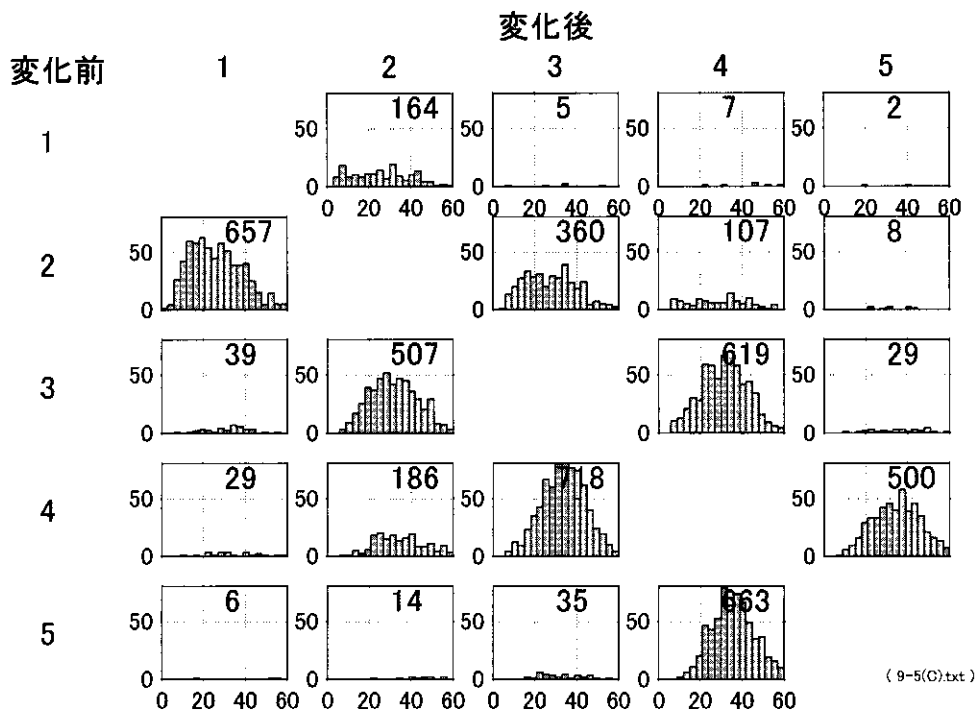


図 9 - 5(C) 食事の介助：年齢（歳）

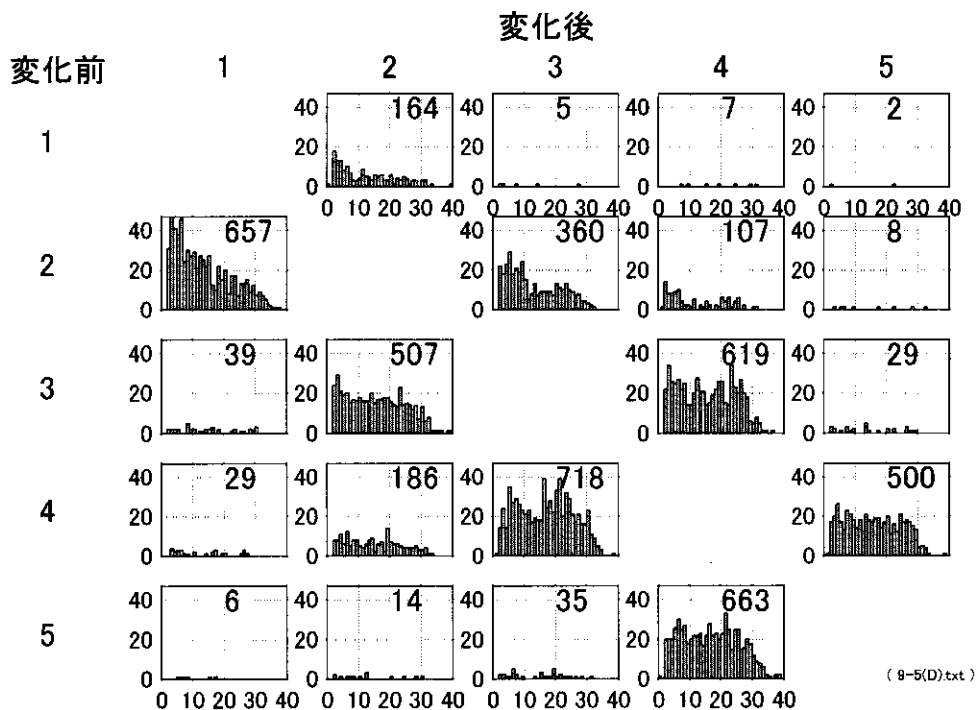


図 9 - 5(D) 食事の介助：変化発生までの入所期間（年）

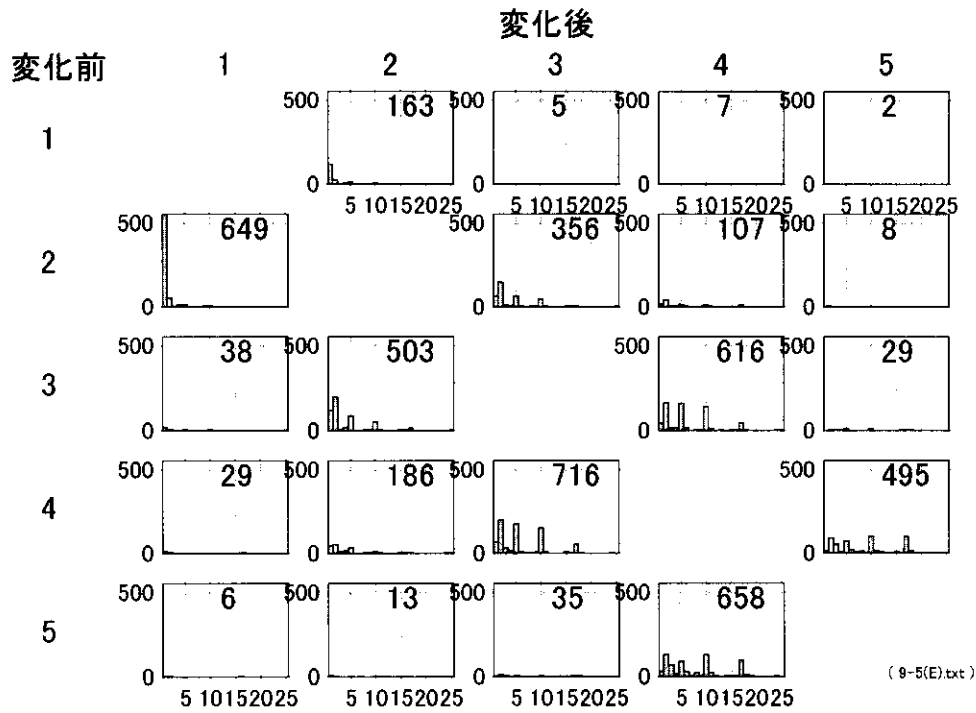


図 9 - 5(E) 食事の介助：大島の分類

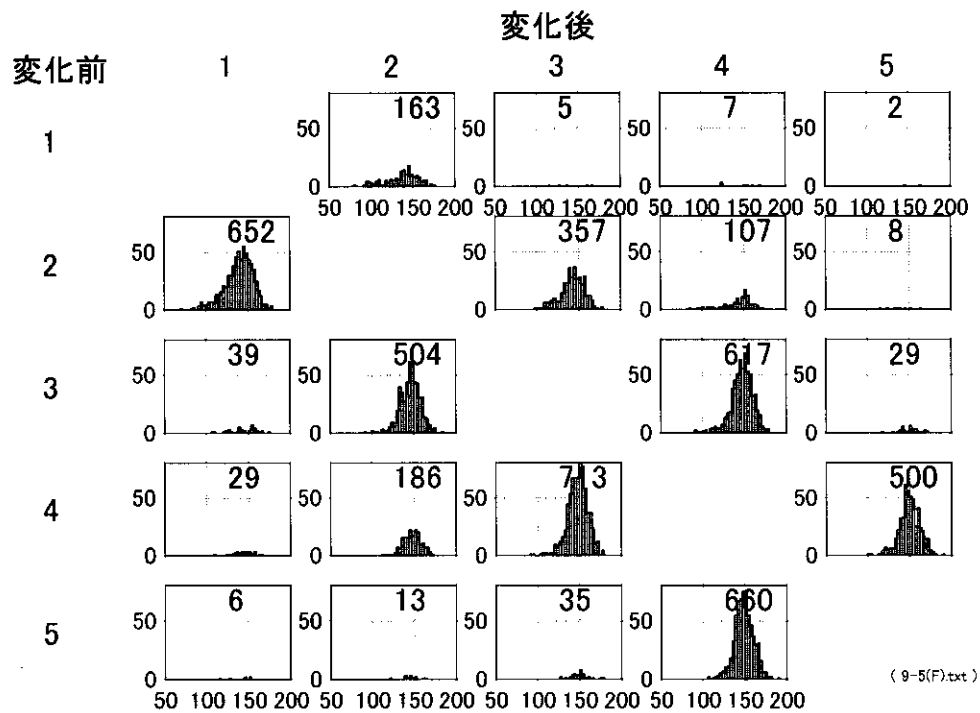


図 9 - 5(F) 食事の介助：身長 (cm)

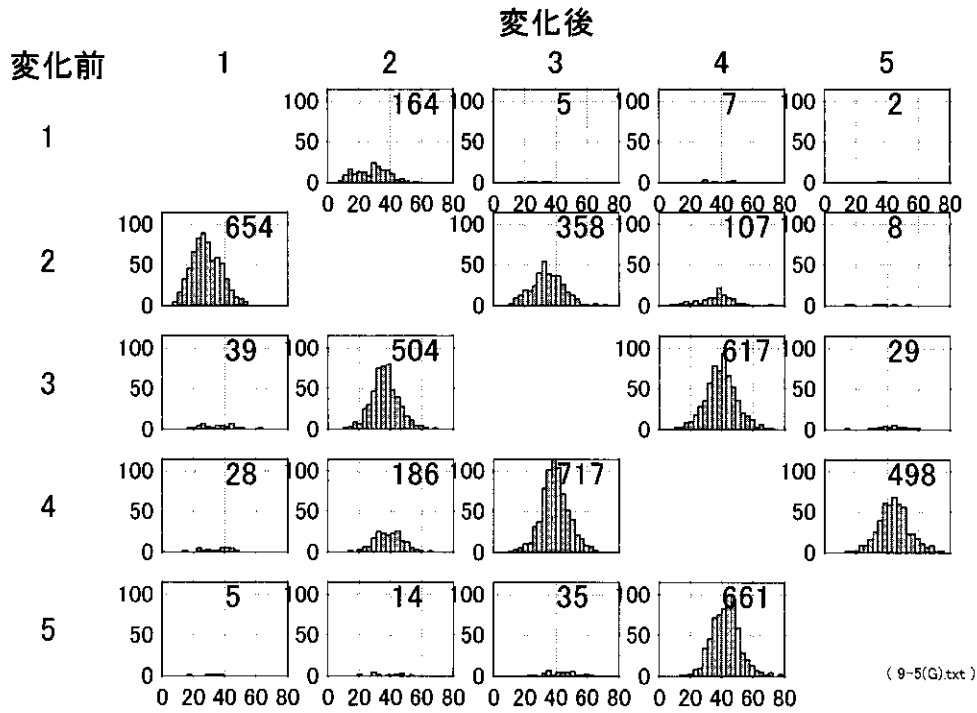


図 9 - 5(G) 食事の介助 : 体重 (kg)

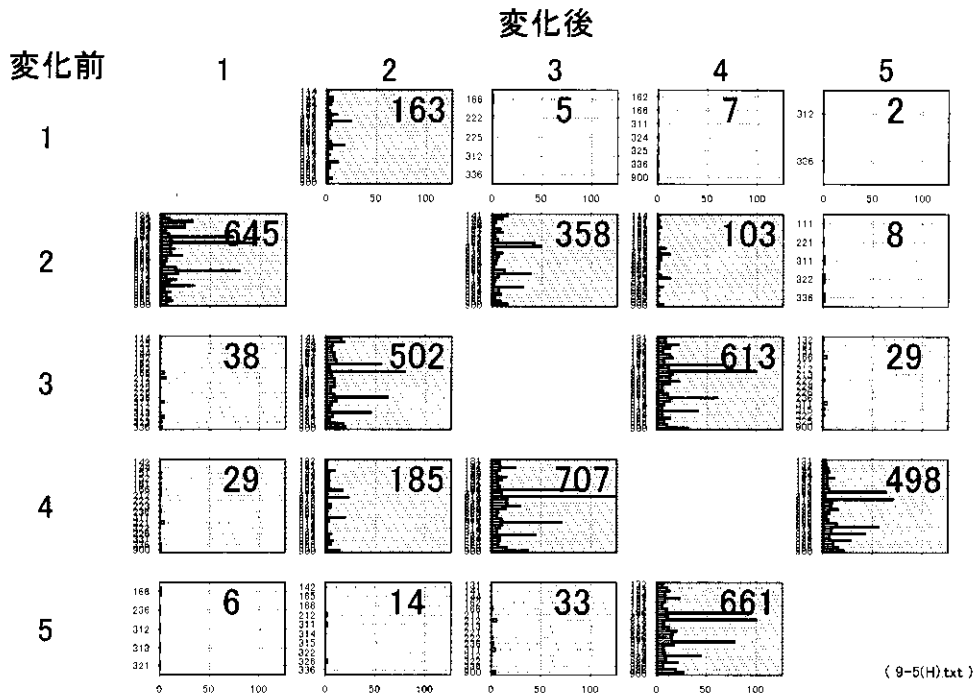


図 9 - 5(H) 食事の介助 : 主要病因

## 9.6. 食の形態

### ■改訂版■

1	ミルク・流動食
2	ミキサー食
3	きざみ食
4	軟飯軟菜
5	普通食

<図 9-6 (A)～(H)>

全体：対象症例数 7485 名の中で不変群 4511 名を除いた，2974 名（39.7%）に変化がみられた。改善は 1414 回，退行は 2825 回発生し，改善は退行に比べて少なかった（改善/退行：-49.9%）。また，改善と退行の和（4236 回）を変化を起こした症例数で除すると，変化が平均で 1.43 回発生したということになる。改善が多くみられた水準は，3 群→4 群（546 回，改善回数の 38.6%），3 群→5 群（299 回，21.1%），4 群→5 群（297 回，21.0%）であった。一方，退行に関しては，4 群→3 群（887 回，退行回数の 31.4%），5 群→3 群（638 回，22.6%），5 群→4 群（454 回，16.0%）の変化が多くみられた。

年齢：改善群では，3 群→4 群が 27～29 歳，3 群→5 群は 33～35 歳，4 群→5 群は 27～29 歳にピークがある。退行群は，4 群→3 群が 30～32 歳，5 群→3 群は 24～26 歳にピークがある。改善は，20 代後半から 30 代前半にかけてみられた。また，20 代半ばに退行し，30 代前半でさらに退行する傾向がみられた。

体重：改善では，3 群→4 群が 31～33 kg，3 群→5 群は 37～39 kg，4 群→5 群は 37～39 kg にピークがあった。年齢の要素に加えて，普通食を接種しているグループは体重が重たい傾向があった。退行群で多い 4 群→3 群は 31～33 kg，5 群→3 群は 34～36 kg にピークがあった。

#### 日常生活動作（食事）のまとめ：

重症児の日常生活の中で食事の項目を見てみると，退行件数が改善件数を大きく上回る傾向があり-20%以上が多かった。排泄の項目の尿や便においては，退行は-10 数%程度であったのと比較しても退行しやすい機能であることが示された。その中で，開閉や咀嚼より嚥下の項目での退行が-40.5%と最大で，機能低下を来しやすいことが示された。嚥下機能が落ちて，食事介助が退行し，同時に食事形態も連動して退行していくことが示された。

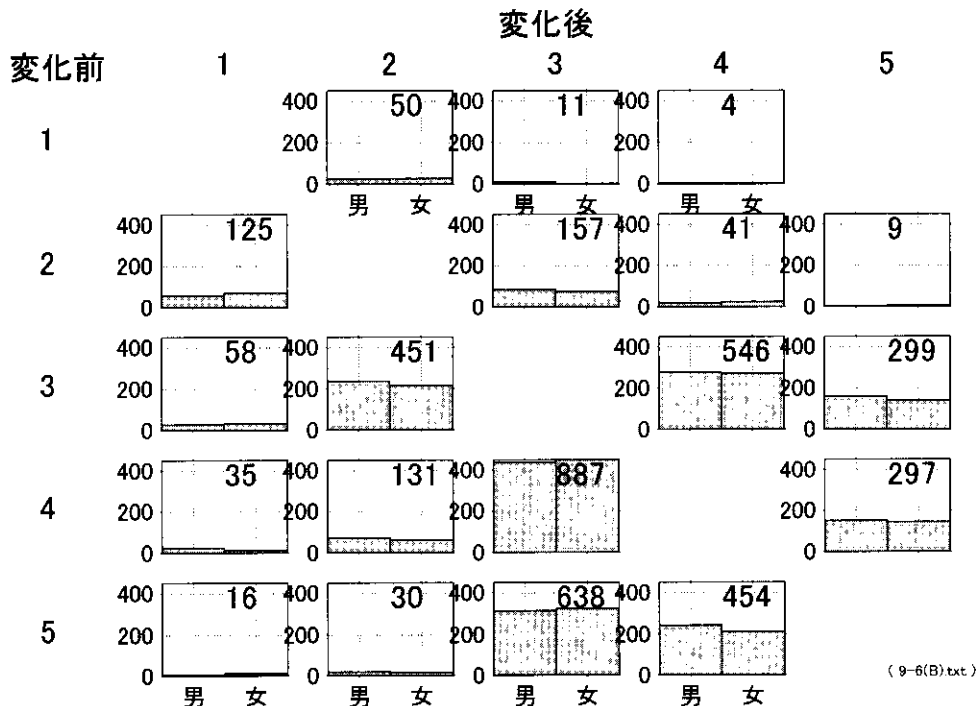
	変化後 1	2	3	4	5
変化前 1	169 名	50 回	11 回	4 回	0 回
2	125 回	439 名	157 回	41 回	9 回
3	58 回	451 回	1575 名	546 回	299 回
4	35 回	131 回	887 回	481 名	297 回
5	16 回	30 回	638 回	454 回	1847 名

対象症例数 = 7485 名  
 不変症例数 = 4511 名  
 変化症例数 = 2974 名

改善変化回数 = 1414 回  
 退行変化回数 = 2825 回

(9-6(A).txt)

図 9-6(A) 食事の形態：全体



(9-6(B).txt)

図 9-6(B) 食事の形態：性別

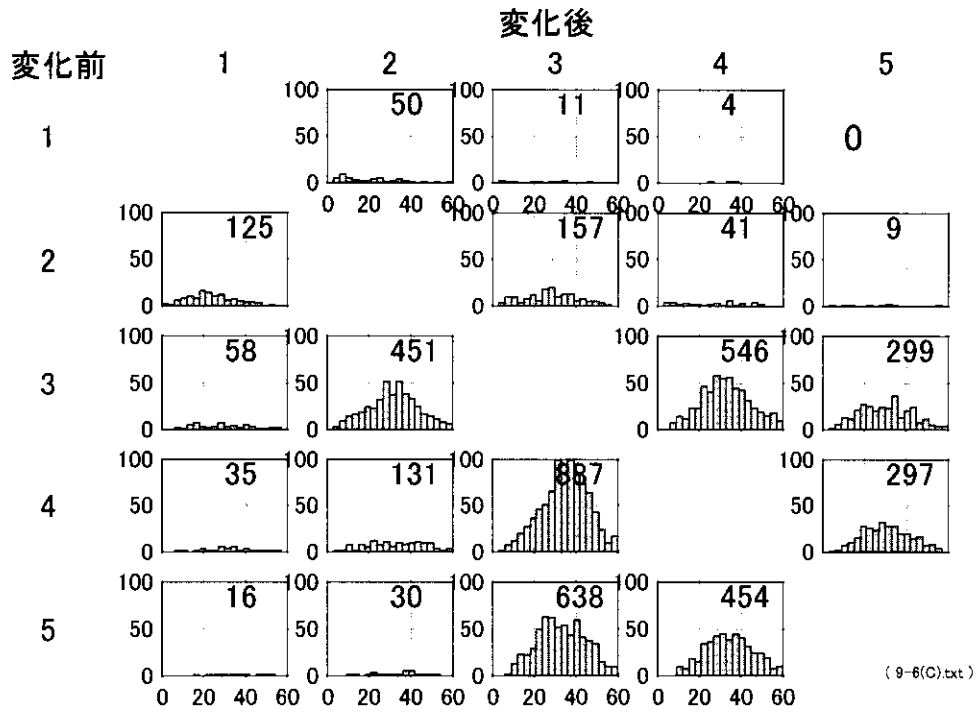


図 9 - 6(C) 食事の形態：年齢（歳）

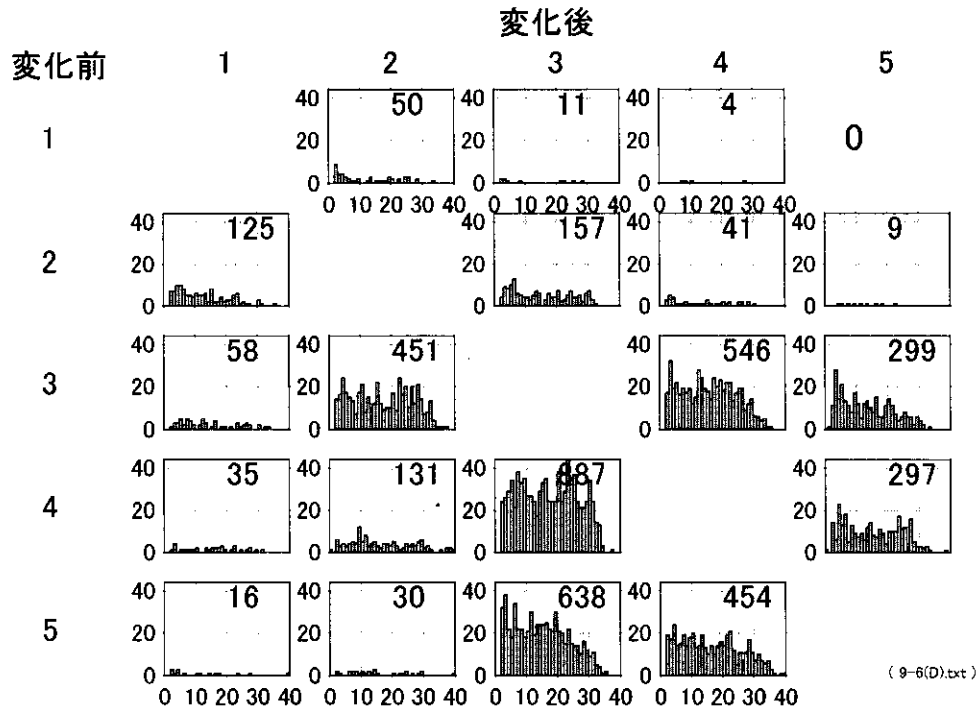


図 9 - 6(D) 食事の形態：変化発生までの入所期間（年）



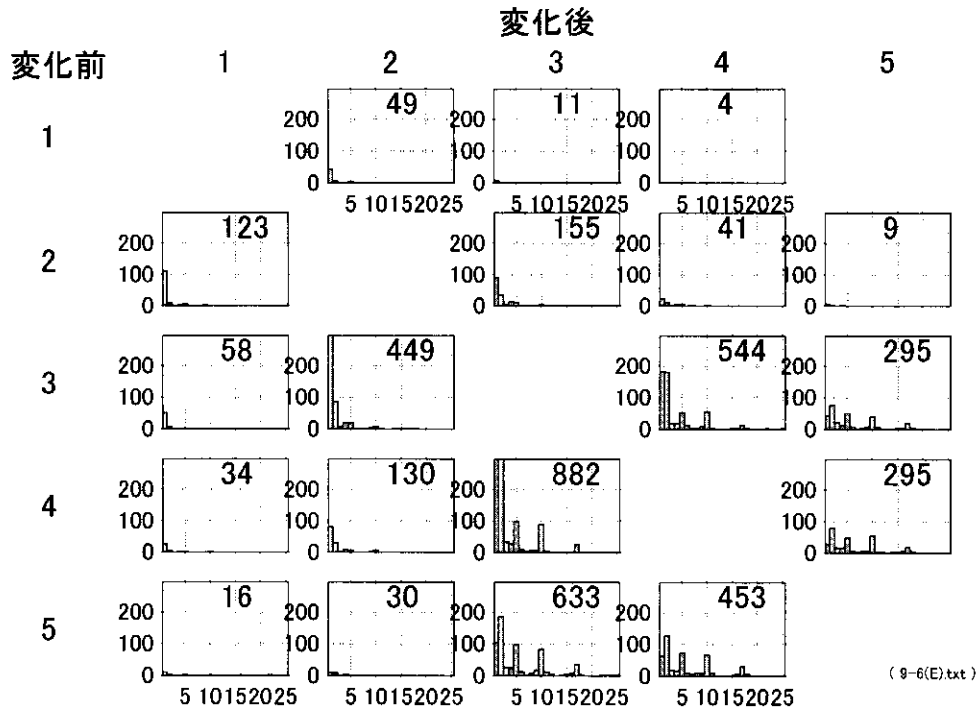


図 9 - 6(E) 食事の形態：大島の分類

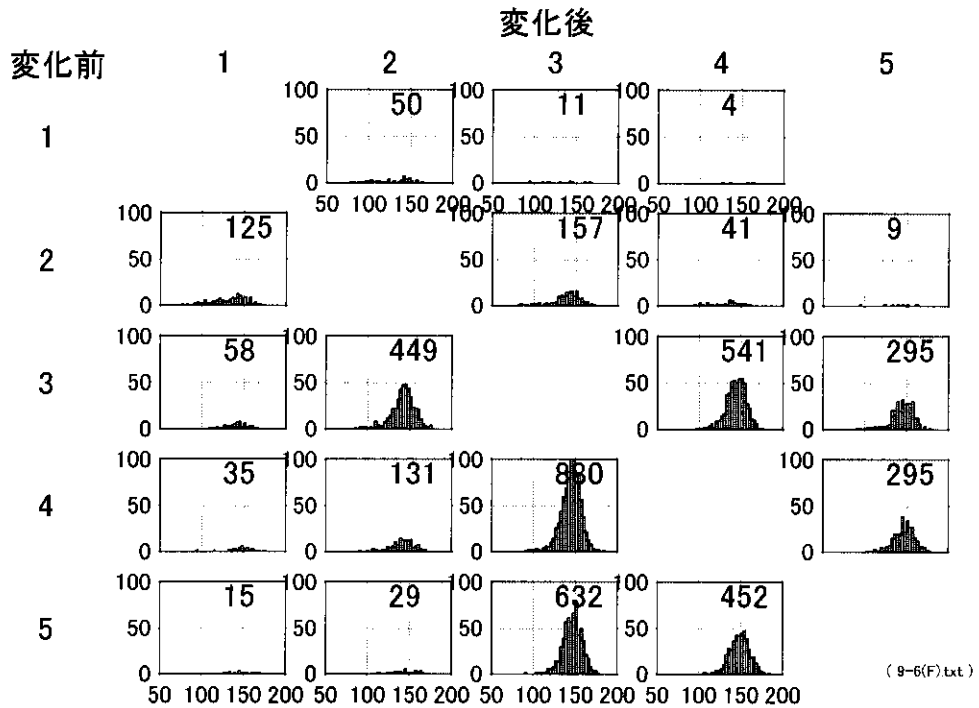


図 9 - 6(F) 食事の形態：身長 (cm)

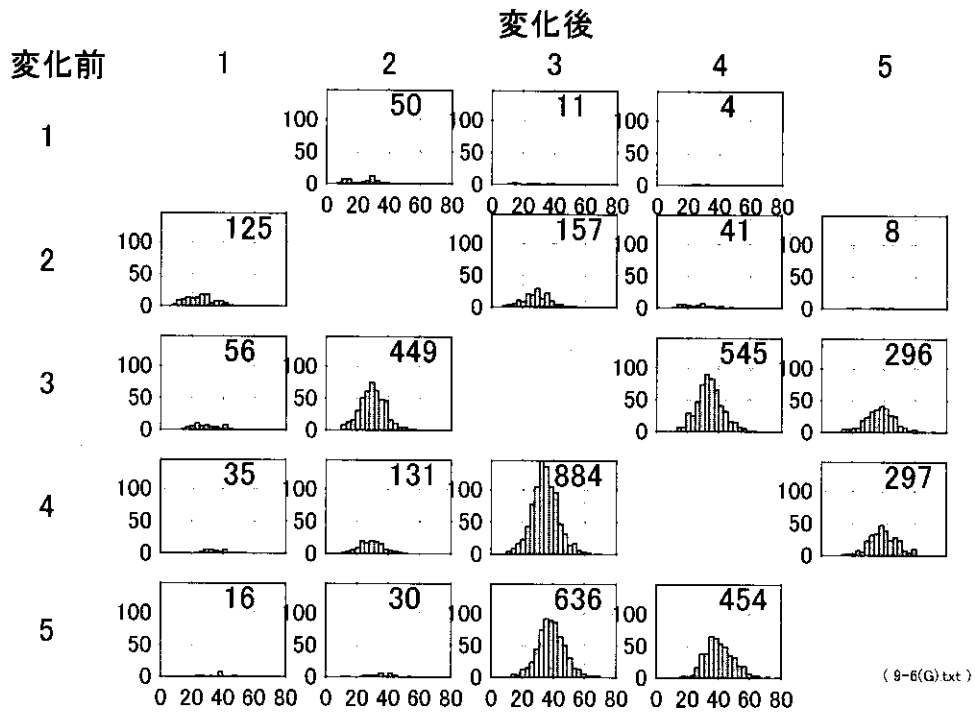


図 9-6(G) 食事の形態：体重 (kg)

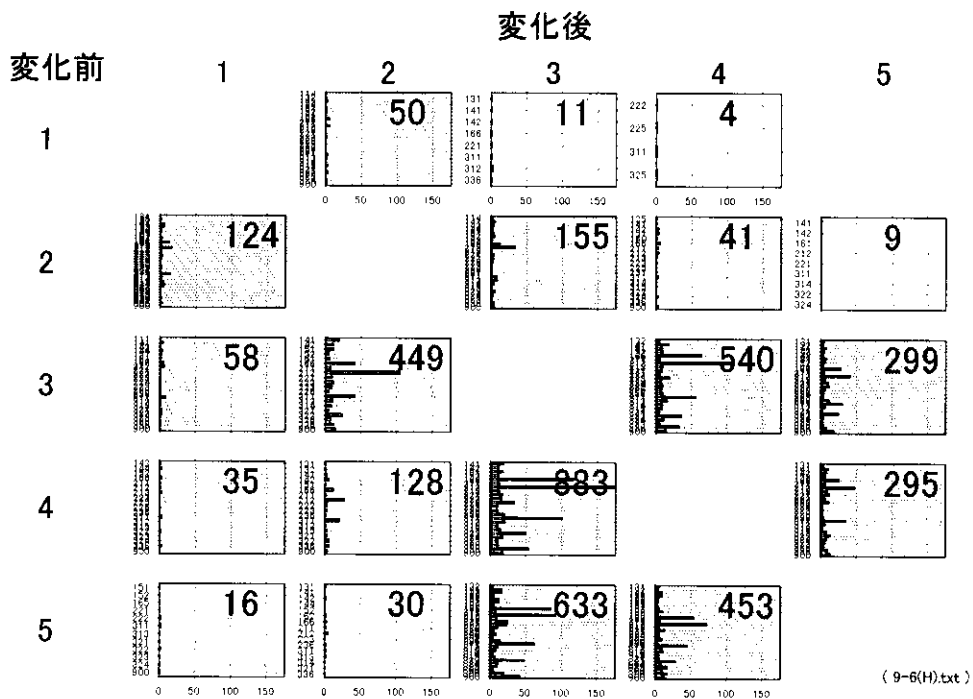


図 9-6(H) 食事の形態：主要病因

# 10. けいれん

## 10.1. てんかん性発作

### ■旧版・改訂版■

1	この2カ月間かなりあった
2	この1年間で10回以上あった
3	この1年間で10回未満あった
4	過去にあったが、この1年間はない
5	現在まで一度もない

<図 10-1 (A)～(H)>

全体：対象症例数 9276 名の中で不変群 4127 名を除いた，5149 名（55.5%）に変化がみられた。改善は 5027 回，悪化は 5387 回発生し，改善は悪化に比べて少なかった（改善/悪化：-6.7%）。また，改善と悪化の和（10414 回）を変化を起こした症例数で除すると，変化が平均で 2.02 回発生したということになる。改善が多くみられた水準は，1 群→2 群（986 回，改善回数の 19.6%），3 群→4 群（1483 回，29.5%），4 群→5 群（1076 回，21.4%）であった。一方，悪化に関しては，2 群→1 群（952 回，悪化回数の 17.7%），4 群→3 群（1268 回，23.5%），5 群→4 群（1321 回，24.5%）の変化が多くみられた。

性別：性差はみられなかった

年齢：改善群で，3 群→4 群は 24～26 歳にピークがあり，4 群→5 群は 30～32 歳，1 群→2 群は 21～23 歳，2 群→3 群は 24～26 歳であった。改善群をみると年齢が高くなるにつれて，てんかん発作が少なくなっていく傾向が確認できた。悪化群は，5 群→4 群は 27～29 歳でピークがあり，4 群→3 群は 24～26 歳，2 群→1 群は 21～23 歳，3 群→2 群は 24～26 歳である。悪化群をみても発作頻度の多いものは若く，少ないものは年齢が高い傾向があった。

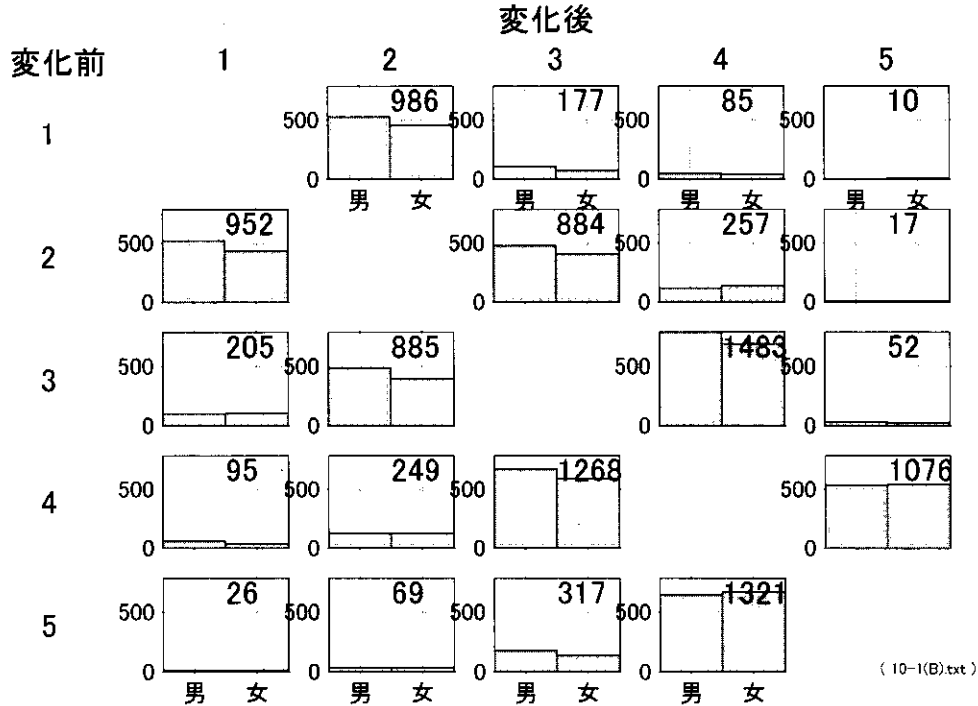
	変化後 1	2	3	4	5
変化前 1	518 名	986 回	177 回	85 回	10 回
2	952 回	204 名	884 回	257 回	17 回
3	205 回	885 回	263 名	1483 回	52 回
4	95 回	249 回	1268 回	1038 名	1076 回
5	26 回	69 回	317 回	1321 回	2104 名

対象症例数 = 9276 名  
 不変症例数 = 4127 名  
 変化症例数 = 5149 名

改善変化回数 = 5027 回  
 悪化変化回数 = 5387 回

( 10-1(A).txt )

図 10 - 1(A) てんかん性発作：全体



( 10-1(B).txt )

図 10 - 1(B) てんかん性発作：性別